

農政の動き 2017年8月6日～8月10日

◎16年産キウイ収穫量は8%減の2万5600ト

農林水産省は、2016年産キウイフルーツの収穫量は前年産比8%減の2万5600トだったと発表した。結果樹面積は2%減の2040ヘクタールとなったことに加え、開花期の降雨などの影響で10ヘクタール当たり収量が6%減の1250キログラムとなった。(8日)

◎15年度の都道府県別食料自給率を公表

農林水産省は、2015年度の都道府県別食料自給率を公表した。カロリー（供給熱量）ベースは、北海道や秋田など14道府県が対前年度比1～14ポイント上昇。茨城や沖縄など17県は1～5ポイント低下した。16都府県は前年度と同じだった。最も高いのは北海道の221%で、秋田196%、山形142%と続く。生産額ベースでは32道府県が1～10ポイント上昇した。新潟や大分など6県で1～6ポイント低下。9府県が前年度と同じだった。最も高かったのは宮崎の287%で、鹿児島258%、青森233%の順。(9日)

◎農場HACCP認証農場数が124に増加

農林水産省は、新たに農場HACCP（危害分析・重要管理点）の認証農場数が二つ増えて124農場になったと発表した。同省は、畜産農場で衛生管理向上と、消費者への安全な畜産物の供給を確保する取り組みとして認証を推進している。(9日)

◎17年上半期の農産物などの輸出額が最高を更新

農林水産省は、2017年上半期（1～6月）の農林水産物・食品の輸出額（速報値）が前年同期比4.5%増の3786億円となり、統計開始（05年）以降、最高を更新したと発表した。増加は4年連続。輸出先は香港が839億円で最も多く、次いで米国（531億円）、中国（499億円）の順。内訳は、農産物が2.0%増の2284億円、林産物は33.9%増の173億円、水産物は6.0%増の1328億円で、農産物では、畜産物や緑茶は前年同期に比べ約3割増加したが、青果物は約2割減少している。(10日)

◎「紀州金山寺味噌」をGI保護制度に登録

農林水産省は、新たに和歌山県の「紀州金山寺味噌」を地理的表示（GI）保護制度の対象に登録したと発表した。地域の特色ある方法で生産された産品を国が登録・保護する仕組みで、これまでの登録数は計39産品となった。(10日)

◎オゾン層 わずかに回復も紫外線は増加

気象庁は、「オゾン層・紫外線の年のまとめ（2016）」を発表した。世界のオゾン全量は2000年以降わずかに回復傾向が見られるものの「依然少ない状況」と指摘。国内のオゾン全量も緩やかな増加傾向にあるが、国内の紫外線は増加傾向にあり、観測地である札幌（北海道）とつくば（茨城県）、那覇（沖縄県）の3地点とも「1990年以降増加傾向が明瞭に現れている」とした。(10日)